

2017年4月3日

最近の大学における金融教育

近畿大学 世界経済研究所 客員教授
IIMA 客員研究員 山上秀文

今般、アジア開発銀行研究所長の吉野直行先生との共著テキスト『金融経済—実際と理論(第3版)』が、初版から4年を経て、慶應義塾大学出版会から上梓された。

今回の改訂では、導入から1年が過ぎた「マイナス金利政策」などを加筆している。しかし、金融経済を、まず初めの1-7章で実際面から解説し、その実際を分析するための経済、金融のミクロ、マクロ理論について、残りの2章で述べる構成は、初版以来変わっていない。

なぜ、このテキストが当初の筆者たちの予想を上回って売れ、2年ごとに版を重ねているのか？ 最近の大学における金融教育との関連で考えてみたい。

従来ある多くのテキストの構成に沿って、学部の学生に金融理論からまず教え込もうとすると、数学や図表によるモデル分析の何が面白いのかという顔をされる。一部の学生は教室で居眠りしてしまう。このテキストでは、資金循環の実際のデータを見ながら、現実の金融の動きを概観し、IS—LMモデルも、この資金循環から導き出せることを理論編で説明して、実際と理論の結合を図っている。

さらに問題なのが、経済、金融のグローバリゼーションである。従来の「金融論」のテキストでは、国内の金融が中心で、グローバルな資金の動き、為替レートなどは、「国際金融」のテキストにしか収録されていなかった。金融は、国内も海外も一体となって動いており、その動きをこのテキストには反映させている。

今後の大学における金融教育は、実際を理論で読み解く専門教育が標準となっていくと思われるが、それに並行して二つの試みがありそうだ。

一つは、金融リテラシー教育である。社会人として金融サービスを受ける側に立った教育である。金融広報中央委員会(事務局・日本銀行情報サービス局)が中心となり取り組むものだ。

たとえば、大学コンソーシアム大阪(43校が参加、全国では京都に次ぐ2番目の規模)では2017年度後期、新科目「金融リテラシーを高める—生活設計と金融の基礎知識」の導入が決定している。「人生とお金」「お金と経済」「ライフプランを描く」「お

金をふやす」「リスクに備える」などの身近なテーマで、金融リテラシーの向上が利用者保護や金融システムの安定につながるとの問題意識がある。

もう一つは、金融業界で働くためのキャリア教育である。金融サービスの提供側に立った教育と言ってもよい。実際に、私が働く近畿大学では、メガバンク構成行の人事部人事課での総合職採用統括の経験者を客員教授に招き、全学での金融ガイダンスを開き、金融キャリアゼミを開設している。金融業界で働くことに対しての深い理解を学生に求めて、就職支援にもつながる個別指導にあたっている。

このように、最近の大学における金融教育は、急速に変化する金融の動きに沿って新しい展開を見せている。大学の競争力を決定する要素の一つとして、従来の「産官学連携」を超えて「産官学金連携」が大切とされる所以でもある。

(IIMA メールマガジンへの寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2017 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokuchō 1-chōme, Chūō-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話：03-3245-6934 (代) ファックス：03-3231-5422

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>